



ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyaminami/>

代表メールアドレス ky-e-kamariyaminami@city.yokohama.jp



令和 5年 8月 31日

横浜市立釜利谷南小学校

9月号

校長 平野 好子

個別最適な学び・協働的な学び ～自ら学び方を選択・決定し、学んでいくことへの支援～

夏休みを終え、子どもたちを迎えて前期後半がスタートしました。まだまだ、暑い日が続きます。

この夏、子どもに寄り添う・個を大事にする「個別最適な学び」について考える学びの場がありました。2030年頃の社会を見据えて、横浜の教育が目指すべき姿を描いた「第4期横浜市教育振興基本計画」の視点1に「一人ひとりを大切に」と示されています。これは、特別な支援が必要な子どもも、日本語指導が必要な子どもも、登校に不安な気持ちをもつ子どもも、口には出せないけれども何らかの不安や苦しみをかかえている子どもも含めた全ての子どもの個性に応じた「成長」を大切にすることです。それぞれの子どもたちが成長するための個に応じた最適な学びを行うためには、一人ひとりの多様性を見取り、尊重し、つながりを大切にしていくことが重要であることを改めて感じました。

「協働的な学び」とは、一人ひとりの考えを子どもたち同士、または、地域の人や専門家など多様な人と共同してより良い学びにつなげることです。学校は協働的に学ぶ場でもあります。学校で協働的に学ぶことが子どもの成長に大きくかかわることは確かです。しかしながら、協働的に学ぶには、その集団をつくる一人ひとりがいることを忘れてはなりません。これからは、なお一層、自主的・自立的な学習者として子どもたち一人ひとりを育成していかなければなりません。そのために、子どもたちを取り巻く学びの空間や時間の見直しを図るとともに、子ども自身が自分に合った学習の進め方を自ら選択し、決定していくことがとても大切になってきます。個と集団の両方をバランスよく育んでいくことが今、改めて求められていると感じています。

子どもたちは、学級での各教科等の学習、係活動や当番活動、たてわり活動等の異学年とのかかわりなどの日々の学校教育活動で、それぞれのめあてに向かって取り組んでいます。学校が子どもたちにとって、安心できる場となり、「他者とかがかわることが楽しい」「できなかったことができるようになってうれしい」と感じる場とならなければならないと強く思います。

コロナ禍で以前のように水泳学習を行うことができなかった期間があったことから、また、熱中症が心配される夏休み中の登下校ということもあり、今年度は、3年生以上で25メートル泳げるようになりたい児童を対象に、7月21日（金）から26日（水）までの4日間、夏季特別水泳クラブ指導を行いました。保護者の方々にもご理解・ご協力いただき、暑い中での登下校も含めて、安全に行うことができました。「今までより長く泳げるようになった。」「息継ぎができるようになった。」「今までできなかったのに、25メートル泳げるようになった。」と、うれしそうに話す子どもが多くいました。

今の自分を見つめ、「こうなったらいいな。」「こうなりたいな。」という思いや願いを、もってもらいたいと思います。スタートラインがみな同じでなくてよいこと、他と比べてできない自分に自信を失うのでなく、できるようになりたいことに目を向けていくことを大切にします。なりたい自分に向かって安心して挑戦できる場となり、挑戦するための心や能力を身につけるための最適な学び方を子どもが選ぶことができるように支援してまいります。

日々の学校生活の中で、学級・学年やたてわり班の仲間とともに、また、学校内だけでなく家庭や地域の中でもなりたい自分を目指して、自分のペースで学ぶ楽しさを味わい、日々の学びをかかわる仲間とともに積み重ねていくことが、子どもたちの成長につながると感じています。

今後とも、地域の皆様、保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

